

インフォーマー・ジョウ ジャーキュラー no. 22

1975年11月

目 次

I 事務局役員の交替	1
II DGD基金について	
-再びDGD充実のための募金について	1
III DGD編集局より	2
IV 団勝磨先生記念論文の原稿について	3
V 国際発生生物学会議について	4
VI その他	4
1. 寄 贈 図 書	4
2. 会 員 変 動	5

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物教室内

1 会費納入のおねがい

会費は前納制ですのでS50年度会費未納の会員は至急御納入下さい。

郵便振替 名古屋42801

日本発生生物学会

年 4,500円

2 現在DGDの基金を募集中です(本文参照)。

1口 1,000円(1人何口でも可)

払込先 郵便振替名古屋42801

日本発生生物学会

(振替用紙の裏面に“DGD基金”と明記して下さい)

3 サーキュラーの原稿をお寄せ下さい

サーキュラーは、年3～4回発行しておりますが、会員の方々からの投稿をお待ちしています。内容、および長さには制限しておりませんが、400字原稿用紙で5～10枚ぐらいが適当です。

(研究所の紹介、海外でのニュース、研究上のトピックスなど……)

I 事務局役員の交替について

1974年1月より事務局が大阪市立大学より名古屋大学へ移動し、同時に3役員も交替をしましたが、以来、ほぼ2ケ年を経過しようとしております。役員任期は特に規定には示されておきませんが、学会の事務局には専属の事務員が常駐している訳でなく、日常の雑務の多くは役員の本務の合間の内転に頼らざるを得ない実状から考えて、任期は慣例として2ケ年とすることが提案され、第10回運営委員会で諒承を得ております(サーキュラー№17)。そこで、1976年1月よりの新役員を探して参りましたが、ようやく下記のB氏の内諾を得て、運営委員の諒解を得た上で、会長より委嘱されましたので御報告いたします。

石崎 宏矩(幹事長)

石母田 忠(会計幹事)

井出 宏之(庶務幹事)

なお、事務局の住所、電話番号、および郵便振替の口座番号に変更はありません。

II 再びDGD充実のための基金募集について

このことについて、サーキュラー№21で会員諸氏にお願いしましたところ、11月6日現在で556,500円の御応募を得ることができました。御協力誠に感謝に堪えません。サーキュラーで申しあげましたDGD強化実現のためには基金目標額150万円としておりますので、基金募集を息の長い運動として会員諸氏の御協力を得たいと存じます。サーキュラー№21を御覧いたゞいて、さらに広く御助力をいたゞきたくお願い申し上げます。

なお、御寄付下さった方々の御氏名はいずれ感謝のためにサーキュラーに載せさせていたゞくことになるかと思いますが、各個々の金額は公にしないことにしたいと存じていますので、御諒承をお願い申し上げます。会とDGD誌発展のために再び以上のことお願い申し上げる次第であります。

会長 相山正雄

なお基金の申込先および方法は以下の通りです。

1口 1,000円 (1人何口でも可)

払込先 郵便振替名古屋42801

日本発牛生物学会

(振替用紙の裏面に“DGD基金”と明記して下さい)

Ⅲ DGD編集局より

§1 DGDの編集について

現状および1976年度予定

現在Vol. 17, №3は再校中。近日中に完成, 配布します。Vol. 17, №4はすでに印刷中です。Vol. 18, №1は12月中に印刷に回付の予定。1975年度のVol. 17は, 約400頁, 掲載論文数42篇となります。(但し, 特別に掲載した日仏発牛生物学会議記録は除く)。

以上の現状を考慮の上, 1976年度の計画をDGD編集委員会で論議しました。その結果, 1976年度は総430~450頁程度はミニマム必要であると考え, そのための予算を来年初めの学会委員会で提出することになります。郵送費の値上げもあり, かなりの予算増を避けることができない状況にあることを, 会員各位に御理解頂きたいと思います。なお, 委員会としては1977年度より定期講読料の値上げは避けられないと考えています。

DGDの投稿規定の一部改正

1) DGDの印刷面積を現在より広げます。

14×20cmになりますが, 写真・図版などをこの大きさに準備頂くようお願いします。

2) 文献の引用の様式を改めます。本文テキスト中に引用される文献は現在, 著者名と年号が記されていますが, これを番号で示すようにします。例えば, 現在では (Mazia and Dan, 1952; Mazia, 1955; Kane, 1962; Sakai, 1966) とあった場合は (3, 2, 1, 4) というようになります。番号はテキスト中に引用される順番ではなく, その論文に引用される文献の著者のアルファベット順とします。従って文献リストの配列は現在通りですが, 各文献ごとに(1)から順に番号をつけて下さい。

以上は編集委員会を取りきめた方針です。Vol. 18, №2から以後この方針で編集しますので寄稿者各位の御協力をお願いします。

岡田 節 人 (DGD編集主幹)

Ⅳ 団勝磨先生記念論文の原稿について

前発生物学会会長、団勝磨先生は、本年をもって70才を向えられました。前会長であり、永く本会欧文誌の刊行に貢献されましたことは、さておく致しましても、先生の発生物学会における業績は誠に巨大というべきであり、その学風を慕う研究者は世界中に多数であります。70才を向えられるに当たり、私共は自発的になんらかの記念の行事を企画したいと考えました。つきましては、この際御意志のある方から先生にdedicateする論文をDGDに投稿され、これをもって記念の一つとしたいのであります。学会長、DGD編集委員と相談しました結果、次のような要領で実行に移したいと存じます。御協力、御支援をお願いします。

要 項

- ① 記念論文として寄稿される方は論文第1頁にその旨を記すこと。
- ② 特集号を発刊するのではなく、Vol. 17, №4～Vol. 18, №3までに記念論文を印刷する。記念論文の受付けは、一応1976年5月末までとする。
- ③ 掲載までの手続は、記念論文である理由で特別扱いはしない。また、記念論文の発刊により、一般論文の発刊が遅れることがないようにするのは、もちろんです。
- ④ 記念論文の印刷費の半額は著者負担とする。
- ⑤ Vol. 17, №4 or Vol. 18, №1に適当な方に、団先生を記念する2頁程度の記事を依頼して掲載する。

発起人 金谷晴夫 (東大・海洋研), 毛利秀雄 (東大・教養),

岡田節人 (京大・理), 岡崎嘉代 (都立大・理),

酒井彦一 (東大・理), 米田満樹 (一ツ橋大)

※疑問の点は、発起人にお問い合わせ下さい。

V 国際発生生物学会議の準備について

本サーキュラー誌上で毎回お知らせしています。1977年に東京で開催予定の国際発生生物学会議についての第一回サーキュラーがつい先日準備されました。国際発生生物学会のメンバーの方々には本部（ヘルシンキ）からいずれ送付されますが、お急ぎの方、或は国際学会の方に加入しておられない方々で入用とされる方は、東京都文京区本郷、東京大学理学部動物学教室内、寺山宏氏にあてその旨お申込み下さい。なお、当学会の事務局にもかなりの部数をおいておきます。

すでに前サーキュラーで紹介しましたが、1977年の会議におけるシンポジウム主題はInitiation of Developmental Changeです。個体発生の開始、遺伝子活性の開始、細胞分化や発ガンのキーとなるメカニズムなどの広汎な問題をできるだけ統一的に論じたいというのがこのシンポジウムの意図するところです。約16人のスピーカーに話題提起を依頼する予定です。プログラムの選定にあたります国際組織委員会は1976年4月までに大要の決定を行う予定です。シンポジウムの人選について、および会議で予定されている討論集会のテーマについて広く御意見を寄せて頂くよう毎回お願いしましたが、なお1975年12月までとして、お考えのところをこの委員会のChairmenでありますDr. J. D. Ebert (Dept. of Embryology, Carnegie Institution of Washington, 115 West University Parkway, Baltimore) または岡田宛 お知らせ下さい。

一般に応募をつのります発表講演の申込みについては、いづれ当会会員には、このサーキュラーを通してお知らせします。

岡田節人 (京大 理学部)

VI そ の 他

§ 1 <寄贈図書>

OKAJIMAS FOLIA ANATOMIA JAPONICA

(Band 52, Heft 1, Seite 1 ~ 58)

OKAJIMAS FOLIA ANATOMIA JAPONICA

(Band 52, Heft 2 ~ 3, Seite 59 ~ 150)

MEDICAL BIOLOGY (Vol.53, No.1, Feb. 1975)

" (Vol.53, No.2, Apr. 1975)

" (Vol.53, No.3, June, 1975)

ANNALES ZOOLOGICI FENNICI (Vol.12, No.2, 1975)

" (Vol.12, No.3, 1975)

§ 2 会 員 異 動

< 新入会員 >

今野健二郎 東京水産大・水産動物学

①水産動物の発生に及ぼす放射線の影響

②メダカ・ニジマス・ウニ

< 退会会員 >

相馬 研吾 東京教育大・理・植

< 住所変更 >

	< 旧 >	< 新 >
浅尾 哲朗	東京教育大・理 動	聖マリアンナ医科大・生物
伊藤 隆造	東京医科歯科大・医・2解	筑波大・基礎医学系・解剖
大川 真澄	横浜市立大 文理・生	横浜市戸塚区俣野町1403 ドリームハイツ9-402
小野 記彦	東京都立大・理・生	調布市小島町666-2 京王多摩川コーポラス426
河合 武	農林省農業技術研究所	農林省草地試験場
酒井 康弘	京大・理・植	北里大
鮫島 正純	北大・理・植	東京都立アイソトープ総合研究所
鈴木 昭憲	東大・農・農芸化学	松戸市小金原団地3-8-6-105 (〒270)
林 孝三	東京教育大・理・植	

林 雄次郎
淵側 祐一
藤原 正武
星野善一郎
松坂 理夫
三宅 康子
山本 将

渡辺 一雄
渡辺 浩

<旧>

岩波書店・編集部
京大・理・動
東京学芸大・生
東北大・理・臨海実
北大・低温科学研
大阪大・理・生
東京都板橋区仲宿41-11
清和荘6号
大阪大・微生物病研究所
東京教育大・理・動

<新>

東京都世田谷区代沢2-18-18 (〒115)
滋賀医科大・生物
東京都江東区深川1丁目6番 15-801
岩手大・教育・生物
熊本大・理・生物
大阪大・微研・動物ウイルス部
帝京大・医・第1解剖

鐘紡ガン研究所
東京教育大・理・臨海実験所

贊助會員

三菱化成生命科学研究所

東京都町田市南大谷 11 号

贊助會員

和 研 藥 株 式 會 社

京都市左京区北白川西伊織町25 電話 京都 (075) 721-0491(代)